

トヨタ博物館だより

TOYOTA AUTOMOBILE MUSEUM

03. イベント報告 第22回 クラシックカー・フェスティバル

05. 展示車紹介 トヨタ セリカ TA22型

09. 企画展予告 「はたらく自動車」

10. ギャラリー展 「クルマ写真 宝箱 Part2 ～五十嵐平達コレクションより～」

11. カーウォッチング 74 クラシックカーの運転席廻り(15) ランチア アストウーラ ティーポ233C

12. FROM TAM ARCHIVES BMW501・502

13. TAM INFORMATION 寄贈情報・お知らせ 他

NO. **84**
2011.JULY



01. 特集企画

「未来の交通社会とクルマ」

企画展

The Future of Mobile Society and the Automobile 未来の交通社会とクルマ

期間 4月21日(木)～7月3日(日) 会場 本館2階特別展示室

協力:ダイハツ工業株式会社、名古屋都市センター 協賛:公益社団法人自動車技術会 中部支部

交通というものは、これまで社会の発達に重要な役割を果たしてきました。
東日本大震災では、車が地方の主要なライフラインであることが実証されました。
一方、交通事故、大気汚染をもたらし、地球環境問題にも大きな影響を及ぼしており、これからの交通のあり方が問われています。



50年前に描かれた未来都市 映像とスチュードベーカー アバンティ

ニューヨーク万博(1964～65)のGMパビリオンで、巨大なジオラマを使って「未来都市」フューチャラマが紹介されました。
この映像に添えて、レイモンド・ローウィがデザインし1963年に発売された未来都市にふさわしいスタイルを感じさせるアバンティを展示しています。

名古屋の都市計画

名古屋は日本では自動車の依存度が非常に高い都市です。100m道路、名古屋高速、名古屋第2環状自動車道等により都心部への車によるアクセスが容易で、市街地へ入らないで通過が出来ます。また、東海道線、中央線、環状と放射状の地下鉄、バス路線がよりめぐらされ公共交通に恵まれています。



名古屋テレビ塔背景といすゞヒルマンミンクス



名古屋市街地の新旧写真とスチュードベーカー コマンダー

都市計画と 新交通システム

車が増えて道路を拡充しても、しばらくすると車が増えて再び渋滞してしまいます。渋滞で悩まされた都心では、自動車交通規制などの交通需要マネジメントや新交通システムが導入されるようになってきています。



ネットワークでつなく 交通社会

情報通信によって車社会がどのように変わってきたか、今後どのように変わっていくかを紹介しています。また、自動運転は実現するかというテーマで、自動運転の最新動向を紹介しています。

エコカーの普及をめざして

自動車が排出するCO₂は、世界全体のCO₂排出量の約17%を占めています。自動車から排出するCO₂を低減するためには、エコカーの普及とエコ運転とスムーズな交通流を実現していく必要があります。ここではEV、HV、PHV、FCVを紹介し、エコカーの総合効率やCO₂排出量比較、リチウムイオン電池や燃料電池や非接触電力伝送などについても紹介しています。



未来の交通社会

クリーンで豊かな交通社会とはどのようなものなのかをパネルやジオラマや、モデルカーなどをご覧いただき、これからの交通社会のあるべき姿を考える場です。

新興国の自動車保有台数は急増し、世界の保有台数も増えています。

- ・超高齢者の移動の足をどのように確保していくか
- ・環境負荷が小さい接続可能な交通システムとは
- ・歩行者、自転車、二輪車への危険情報提供の整備
- ・過疎地での移動をどうしていくか



未来の交通をアニメで紹介するシアター



未来の交通と社会 (ジオラマ)



現在の交通と社会 (コンピュータグラフィック)

企画展
担当者
から

これからの交通社会とクルマのあるべき姿を来館者の皆様と共に考える場にすることが出来ればと思い、難しいテーマでしたがチャレンジして開催にこぎつけました。



学芸グループ 大須賀和男



公道パレードに出発。見送りもすごい人です



北駐車場に続々登場



沿道からも声援が



公道パレード

モリコロパークに到着



長久手町内を2000GTが、トヨタ スポーツ800が、走る!



三年越しの悲願「バックカード トゥエルヴ」の走行実現!
ルーズヴェルト大統領専用車に、大村秀章・愛知県知事にご同乗いただきました

オープニングセレモニー&トヨタ博物館所有車両による走行披露



東日本大震災の犠牲者に哀悼の意を表して、黙祷



大人気! ガルウィングの「ベンツ300SL」そして「デロリアン」!

トヨタ博物館 第22回



クラシックカー・

99台のオーナーの皆様にご参加いただいた今年のフェスティバル。

朝には若干晴れ間も見えた気も? しましたし、公道パレードはとて多くの観客の方に見送られて出発することができました。

残念ながら一時激しい雨には見舞われましたが、オーナーさんやクルマ愛好家の方たちの熱気に、雨天のイベントとは思えない盛り上がり!

終了時にはなんとか雨もあがってスタッフ一同、笑顔でお見送りことができました。



10年ぶりに復活! 園内パレード&オーナーインタビュー

クルマ専門のアナウンサー、
中島秀之さんがオーナーさんにインタビュー

モリコロパーク内をパレード



交通安全イベント「くらピカBOX」



交通安全イベント&情報ゾーン

反射材・シートベルトの効果体験などの交通安全イベントや、
メタボリス、介助犬協会などが出展した情報ゾーンなど

交通安全イベント「反射材体験」

GAZOOメタボリス

東日本大震災 支援ブース 皆様のおかげで、ありがとうございました!

『トヨタグループ災害ボランティアネット』
皆様のメッセージを被災地に届けます『義援金募金』皆様のお気持、
ありがとうございました!

東北地方の名産品も人気!



「がんばろう、日本」のステッカー



インバラに乗って写真撮影

同乗試乗会

会場風景 アメニモマケズ、クルマ談義に花が咲きました!



大芝生広場にズラリ



ダースベーダー...?(お隣のウォカソンさんから乱入!?)



外国からのお客様も



お疲れ様でした! 来年は晴天で...

<オーナーさんのご意見から...>

「参加させて頂き、震災復興PRもできて満足でした。」
 「(公道パレードの) 沿道の方々があたたかくとても反応が良かった」
 「園内パレード&オーナーインタビューは参加車両の特徴を詳しく説明しており楽しめました。」
 「参加してみると、参加者・見学者双方の為のイベントだと感じました。」
 「雨でもこれだけの盛り上がりなので晴れたらいいなってしまうのか...」
 オーナー様、見学者の皆様、本当にありがとうございました。
 (スタッフ一同)

フェスティバル

日時 2011年5月22日(日) 9:30~16:00
 会場 愛・地球博記念公園 (モリコロパーク) (愛知県長久手町)

未来から やってきたクルマ

清水 道明

トヨタ セリカ TA22型
[1970年 日本]



EX-1

TOYOTA CELICA TA22



センターピラーのないハードトップ構造で、三角窓もない。波のようなたくましい「筋肉」の盛り上がりをあわす

はじめに

セリカは1970年(昭和45年)12月に発売されました。ベースとなったのは前年の第16回東京モーターショーに出品され、その未来的なデザインが話題をよんだエクスペリメンタルモデル、「TOYOTA EX-1」です。

当時のニュース・リリースでは、「わが国初の本格的なスペシャルティカーである」と謳われました。(因みに、後年1981年(昭和56年)に発売されたソアラは、「今までの技術を超えた最高級スペシャルティカー」と表現されます。)

トヨタ博物館では、「イエロー・ポリマ」色の1600GTモデルが本館3Fの常設展示を飾り、いまだ健在な独特の存在感を示しています。

フォード・マスタングの成功

初代フォード・マスタングは、開発開始当初当時の副社長だったリー・アイアコッカ氏の指導下で、第二次世界大戦後に出生したいわゆる「ベビーブーマー」世代向けの中型車として開発され、1964年(昭和39年)に開催されたニューヨーク万国博覧会の初日に

発表されました。そのスポーティーな外観や性能、低価格、多彩なオプション群と巧みな広告戦略などで大人気を博し、1960年代の好景気も背景に、T型フォード以来と言われるほどの同社の大ヒットとなりました。

セリカは、このフォード・マスタングの影響を多大に受けたと言われます。

未来からやってきた車 セリカ

セリカのキャッチコピーは、「未来からやってきた車 セリカ」でした。発売当初のカタログでは、「セリカは、いままでの車とはまったくちがいます。タイヤが4つあり、ガソリンエンジンで動くのは同じでも実は根本的に違います。(中略)いわば未来からやってきた車」です。(中略)一言でいえば、セリカは真のパーソナルカー、真のスペシャルティカー。(中略)セリカはトヨタの先進技術のシンボルです。」と記されました。

車体の中心の低位置にドライバーズシートをセットする「MIDDLE&LOW」が合言葉で、そのボデーは、「ラミナー・フローライン」(空気抵抗の少ない成層圏ジェット機の層流翼の形が生み出す乱れのない美しい流線)が起きるようなデザインとされました。



天空を駆ける「龍」のイメージをテーマにしたセリカのシンボルマーク。リア・タイヤハウジング前方に飾られる

セリカ(CELICA)というネーミングは、スペイン語の形容詞で「天上の、聖なる、神々しい」という意味をあらわしています。「これこそ宇宙時代にふさわしく、輝かしい未来をめざし無限の空間を駆け巡るこの車のすべてを象徴」していました。クラウン、コロナ、カローラに続き、「C」で始まるトヨタの伝統を踏襲した車名ともなっています。

また、セリカのシンボルマークは「龍」です。神秘的な美しさをもちながら天空を駆け「龍」のイメージはまさにセリカにぴったりだったのでしょう。

ボデー構成は2ドア・ハードトップ・タイプのものでただ一種類あるのみながら、そのすべてが新鮮で、セリカはそのキャッチコピーに負けずに衝撃的なデビューを飾り、発表と同時に爆発的な人気を博しました。

カリーナとの兄弟車

こうして登場したセリカでしたが、実はメカニズムは時期を同じくして登場したカリーナと共通の兄弟車でした。

トヨタは、昭和30年代にクラウン、コロナ、パブリカの3乗用車を開発、40年代前半には、カローラ、スプリンター、マークIIを送り出しましたが、急速に増大する大衆車ユーザーの上級車への移行の受け皿としても、小型車クラスをより充実する必要がありました。こうした市場の変化と需要の多様化に対応するため、セリカとカリーナの2車種同時投入を決定したのでした。

両車のねらいは、セリカが斬新で躍動感あふれるスタイルのスペシャルティカーとして、カリーナはシンプルな直線を主体としながら、日産のブルーバードSSSが先鞭を

つけ、新しい市場を形成しつつあったスポーティーセダンとして、共に新しいジャンルを切り拓くことにありました。まったく異なるスタイルでありながら、エンジン、トランスミッション、シャシーなどの主要部品を共用し、二車種を同一工場の同一ラインにすることが量産にあたっての決め手でした。そのため、最新鋭の生産設備を備える堤工場が建設されました。

「モーターファン」誌には、「セリカ/カリーナは近代自動車工業の合理と技術の調和が見事に昇華した双生児的傑作車として、国産自動車史上に大きな光彩を放った」、「二兎を追って二兎を得た例」と記されています。

セリカ・フルチョイス・システム

セリカの最も大きな特徴は、群を抜く先進的なスタイリングの美しさと、そのスタイリングにマッチした機能であったでしょう。

それを支えたのが、前述したフォード・マスタングに倣った、個性化時代の要請に応えるわが国では初めての画期的な受注方式、「セリカ・フルチョイス・システム」の採用でした。

4種類のエンジン、3種類のトランスミッション、5種類の外観、4種類のシート、10種類のインストルメントパネルなどを可能な限りユーザーの嗜好に合わせて選ぶことができ、したがって下は57万円台から上は約100万円までの極めて幅広い価格帯をカバーし、理論的には数百万種類のバリエーションができることになりました。

その主要コンポーネント部分はおおよそ以下の通りです。

<エンジン>

1400cc (T型) 86ps

1600cc (2T型) 100ps

1600cc ツインキャブ (2T-B型) 105ps

1600cc DOHC (2T-G型) 115ps

<トランスミッション>

4段フロア

5段フロア

3速フロア トヨグライド (AT)

<外観>

ET (エキストラ・ツーリング)

LT (ラグジャリー・ツーリング)

ST (スポーツ・ツーリング)

GT (グランド・ツーリング)

GTV (Vは勝利のVICTORYの略)

※GTVは1972年のマイナーチェンジで追加設定

このうちセリカ・シリーズ最高の車格を有する1600GT/GTVだけは2T-G型エンジンと5段マニュアルトランスミッションを搭載、「セリカ・フルチョイス・システム」の対象外とされ、内装、外装も他車とは異なる豪華さを誇っていました。外観的にはボデーサイドのストライプが特徴です。



ボデーと一体化されたバンパーが印象的なフロントビュー。低い位置から獲物を狙う猛獣をイメージしている



クリアで明快なリアビュー。丸いテールが特徴で、「ダルマセリカ」と呼ばれた

デイリー・オーダー・システム

セリカ・フルチョイス・システムとともに特筆すべきセリカの特長が、やはり初めて採用された「デイリー・オーダー・システム」でした。これは従来の旬間オーダー・システムをさらに進歩させたものです。

まず、全国の販売店はその日の受注車両をテレックスで当時のトヨタ自販に連絡、トヨタ自販は毎日それをトヨタ自工に伝送します。トヨタ自工はこの中から優先順位や生産の平準化などを考慮し、一日分のボデー着工順序計画を作成してボデー工場へ指示、ボデー、塗装、組立の各工場では、オンライン・コントロール・システムで各工程に仕掛け指示を行います。そして、これら最終工程は、かんばんによって順次前工程から必要な部品を引き取ります。

この新システムによって、受注から納車までの所要期間は従来の半分、早ければ8日、平均でも10から11日に短縮され、受注生産のフルチョイスが可能になったのです。

因みに、本「デイリー・オーダー・システム」は、ユーザーの希望する商品を迅速に提供する生産システムとして、昭和47年度大河内記念生産賞を受賞しています。

レース/ラリーでの活躍

追加されたスポーツ派GTVに代表されるセリカのレース活動も、GTV登場前の1971年後半あたりから開始されていました。

その一部を拾ってみても、1971年11月のオールスター・レース、1972年3月の全日本鈴鹿自動車レース、グランドチャンピオン・シリーズ第一戦で1600GTがそれぞれクラス優勝、4月のレース・ド・ニッポン、5月の日本GPと鈴鹿1000kmレース大会、7月のオールスター・レース、11月のツーリスト・

トロフィー・レースでいずれも総合優勝、という目覚ましい活躍でした。

海外でも、1972年、73年のRACラリーで連続クラス優勝を飾ったのははじめ、1974年の南アフリカ・トータルラリーの総合優勝、ニュルブルクリンク・ツーリングGPでのクラス優勝、74、75年のマカオGPの連続総合優勝など、レースはもとよりラリーでも輝かしい戦績を残しました。

LB (リフトバック) の登場

1973年 (昭和48年) 4月、セリカに新しい派生ボデー、実用的なリアゲートを備えたLB (リフトバック) が登場しました。これに伴い、もともとは「クーペでもハードトップでもない」とっていた従来からのセリカは「クーペ」と呼ばれるようになりました。

トヨタ博物館ではこのセリカLB2000GTも収蔵し、新館2F展示室出口近くに展示しています。

おわりに

かつては若者の憧れの的だったセリカでしたが、特に日本国内でのおりからの若者のクルマ離れ、スペシャルティカー市場縮小のあおりを受け、残念ながら2006年4月に7代目をもって生産終了、35年以上にわたって続いてきたセリカの名前は消滅しました。企画にあたって大きな影響を与えたといわれるフォード・マスタングが、現行モデルでは初代を意識したデザインが採用され、いまだに人気を博しているのに比べて、寂しいかぎりです。

なお、北米市場においては、サイオン・ブランドのtCが実質的なセリカの後継車となっています。



室内のインストルメントパネル。丸型メーターが並び

【参考文献】

- ・ワールド・カーガイド 30 トヨタ
ネコ・パブリッシング 1999
- ・モーターマガジン 1996/12 モーターマガジン社
- ・モーターファン 日本の傑作車シリーズ 第6集
トヨタ セリカ/カリーナ 三栄書房 1973
- ・別冊CG 自動車アーカイブ VOL.5
70年代の日本車篇 二玄社 2000
- ・NEWS from TOYOTA 1970/9/28, 10/23
トヨタ自動車 (株)
- ・創造限りなく トヨタ自動車50年史
トヨタ自動車 (株) 1987

トヨタ セリカ1600GT TA22型

1970 / 日本

○全長×全幅×全高：4165×1600×1310mm

○軸距離：2425mm ○エンジン：水冷直列4気筒DOHC 1588cm³ ○115ps/{85kW}/6400min⁻¹

TOYOTA CELICA TA22





はたらく自動車^{じどうしゃ}

2011年7月16日(土)～9月25日(日)

本館2階特別展示室 後援:愛知県教育委員会、長久手町教育委員会、豊田市教育委員会、日進市教育委員会

夏 恒例となっている「はたらく自動車」展を今年も開催いたします。

会場内ではワークブックを使って、パネル解説を読みながら、はたらく自動車や人について学ぶことができます。

他にも、スタンプラリーや人気の簡易制服をきて写真を撮れるコーナーもあり、小さいお子さんから、夏休みの自由研究のため来館する小学生まで楽しんでいただけます。

展示車両は、パトカー、消防車、救急車、JAF災害対策指揮車、高速道路パトロール車、フォークリフトを予定しています。期間中、夏休みの工作に対応可能な工作教室などを企画予定です。

※企画展(含む展示車両)・イベント内容等は予告なく変更する場合がございます。予めご了承ください。

昨年の会場風景



昨年の工作イベント風景





優れた自動車史研究家であり、
著書や雑誌への寄稿も多い五十嵐平達氏自身が撮影・収集された写真を
当館に寄贈いただいたことからちょうど10年にあたる節目の年に
写真展を開催することができました。

ギャラリー展 クルマ写真 宝箱

Part2



ご寄贈いただいた写真は約 8000 点。膨大な数の
写真をコツコツ整理し、分類作業が完了しまし
た。今回の Part2 では、Part 1 の続きで、戦前・
戦後に日本の路上で撮影された日本車、アメリ
カ車、イギリス車から約 200 点を展示。今回は
Part 1 に要望いただきました写真の解説もたくさ
ん掲載しました。



日本車の写真では、当時撮影された場所に行って、現在の風景を取材しました。未舗装で凸凹道を蛇行し
ながら走るバスやトラックの道路は、今はビルが立ち並ぶ道路風景となっています。
また名古屋の駅前はずっかり風景が変わっていますが、昭和 30 年代の名古屋市写真集から、場所を特定
できました。



会場では、アメリカ車とイギリス車の一部車両の貴重なカタログも展示しています。

五十嵐氏からご寄贈いただいた写真は、自動車史を語る貴重な写真が非常に多く、
今後随時ご紹介していきたいと思っています。

トヨタ博物館ブログ内「クルマ研究☆宝箱」でも紹介しています。
ぜひ一度ご覧下さい。 <http://gazoo.com/G-BLOG/tam/index.aspx>

クラシックカーの運転席廻り ⑮

ランチア アストゥーラ ティーポ233C

Lancia Astura Tipo 233C

早戸 眞琴



展示場では見にくいクラシックカーの運転席廻りの操作装置や計器類についてご紹介します。今回は、イタリアのスポーツカーメーカーとして知られる、ランチア社のランチアアストゥーラ ティーポ233C (1936年)です。

アストゥーラとは、古代ローマ帝国時代の街道名、ティーポは「型」の意味。ランチアの名は、同社の創始者でありエンジニアであったヴィンチェンツォ・ランチアに由来。流線型の美しいボデーのこの車は、ランチアのアストゥーラに※カロツツェリアのピニンファリーナがデザインし架装したもので、左右のフロントフェンダー後部にピニンファリーナの「f」マークを見ることができます。

アストゥーラの生産が始まった1931年当時は、世界大恐

慌のあおりを受けて市場は縮小し、ランチア社は3リッター以下の中級車を生産するようになります。

1935年以降は、ピニンファリーナなどのカロツツェリアが魅力的なボデーを架装して高級スポーツカーとして人気を得ました。

1969年以降ランチア社はフィアットグループの傘下にあります。

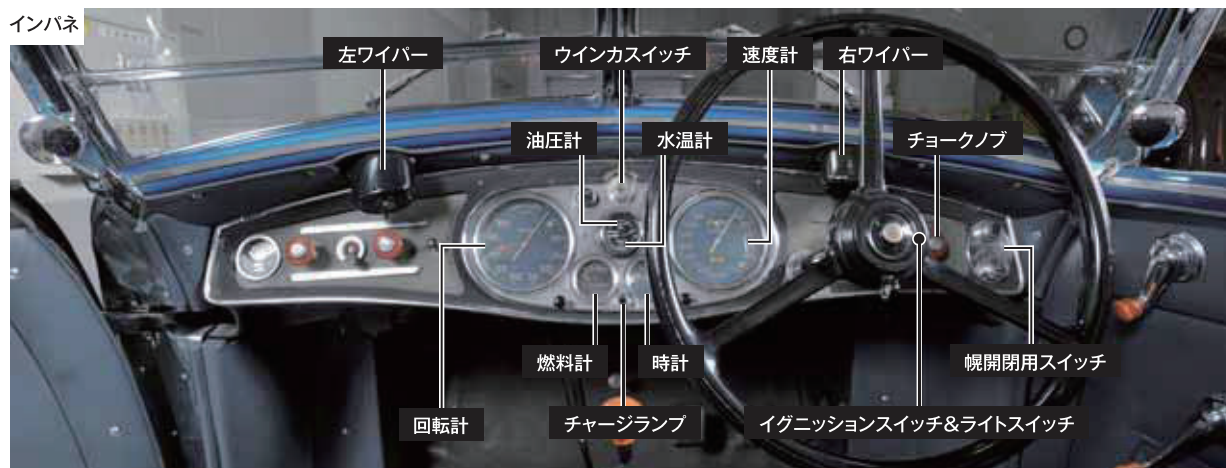
SPEC

- ◎ エンジン型式：水冷狭角V型8気筒OHC
- ◎ 総排気量：2972cc
- ◎ 出力：82 / 60 / 4000(馬力/kw/rpm)
- ◎ 変速機：前進4速M/T フロア FR 駆動方式
- ◎ サスペンション：前輪独立(スライディング ピラー式)、リジッド アクスル(縦置きリーフ)
- ◎ ブレーキ：機械式前後ドラム(ブースター付)
- ◎ 12ボルト(マイナスアース)

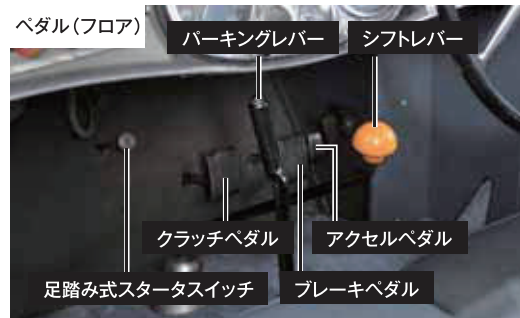
※昔は高級な馬車の車体部分を作る小さな工場あるいは業者で、現在では自動車の車体を専門に

少量生産あるいは特別注文による製作を行う工房をいい、カロツツェリアが自動車デザインに貢献した役割は大きい。

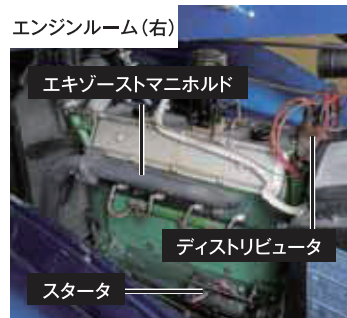
インパネ



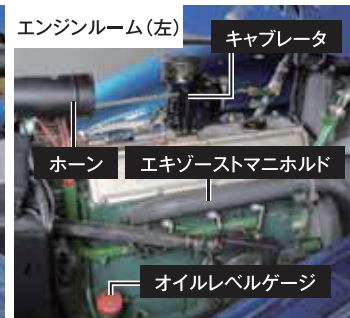
ペダル(フロア)



エンジンルーム(右)



エンジンルーム(左)



BMW 501・502

清水 道明

今回カタログでご紹介するのは、現在のBMWのフラッグシップ、7シリーズの始祖にあたる、「BMW最初の戦後型大型乗用車」、501・502です。

BMW

BMWの正式名称はBayerische Motoren Werke AG、英語読みでバイエルン・モーター・ワークスです。1916年に設立された同社は、大空の青とプロペラの回転する様を表したエンブレムが示す通り、航空機エンジンメーカーがルーツです。

1928年、ディクシーというオースチン・セブンのライセンス生産車を会社ごと買い取って引き継いだ、BMW3/15Dixiが最初の乗用車生産でした。

501・502

第二次世界大戦後、乗用車の生産に復帰したBMWが開発を急いだ大型モデルが501です。曲面で構成された美しいボデーは「バロック・エンジェル」という愛称で呼ばれるほどでした。

ボデーサイズは全長4730mm、全幅1780mm、全高1530mm、ホイールベース2835mmで、コーチワークはシュツットガルトにあるバウア社が受け持ちました。

501は1951年4月のフランクフルト・ショーで発表、翌年11月に発売されました。1971ccの直列6気筒エンジンが搭載されましたが、1340kgの車体に対して65psの出力ではあまりに力不足であり、1954年の3月からはパワーを72psに引き上げた501A/B（Bは廉価版）に置き換わりしました。

さらなるパワーアップを図って生まれたのが、同年のジュネーブ・ショーで発表された戦後の西ドイツ初のV型8気筒エンジン搭載モデル、502です。2580ccの排気量、100psの出力によって最高速度は501の135km/hをはるかに上回る160km/hを記録しました。

翌1955年にはこのV8エンジンを501のボデーに搭載した501-V8も投入されました。

なお、501・502シリーズには、4ドア・セダンの他に、生産台数はごく少数ながら、2/4ドアのカブリオレと2ドア・クーペも存在します。

残念ながら販売の方は振るわず、結局戦後BMWが打ち出した高級車路線は不発に終わりました。1964年までの総生産台数は6気筒車が9017台、8気筒車が5568台に過ぎません。

しかしまた一方、技術的にはクオリティーが高く、信頼のおける製品であり、BMWの高品質イメージを築きあげたモデルだとは言えるでしょう。

経営危機に見舞われたBMWは、イタリア・イソ社のつくるキャビン・スクーター、イソ・イセッタのライセンス生産の権利を取得し、自社のモーターサイクル用エンジンを搭載して販売する方策を取りました。

こうしてつくられた“バブルカー”、BMWイセッタ250は、1955年に安価で販売され、飛ぶように売れてBMW再生のきっかけをつくり、501・502シリーズも生産を継続できたのでした。



一番所蔵の古い1954年の廉価版「501B」のカタログ。右側にスペックが並び、「72p s」の文字が読み取れる



「バロック・エンジェル」と呼ばれた美しいボデー。光がきれいに当たり、外観の抑揚がよくわかる。ドアは観音開き



室内の画像。足元に三つのペダル、助手席前方インパネ上部にアシスト・グリップが見える



少量のみ生産されたといわれる「501 Cabriolet」のイラスト



「501A」。6人乗りであることがわかる。「502」は残念ながらカタログの所蔵がない

【主な参考文献等】

ヨーロッパの名車BMW 保育社 1991

ワールド・カーガイド 14 BMW ネコ・パブリッシング 1994

Collectible Automobile 2010/06 Publication International 2010

寄贈情報

CONTRIBUTION



寄贈車情報



ポルシェ928S4 (1987・ドイツ)
吉田 豊 様

寄贈情報

当社OBの武士様よりカタログ、トヨタ2000 GTスピードトライアル車に使用したものと同種の補助ランプをご寄贈いただきました。

TAMからの
お知らせ

TAM INFORMATION

「東日本大震災」義援金募金
ご協力ありがとうございました!!

トヨタ博物館では、大震災後の3月23日から館内で義援金の募金箱を設置しています。4月30日までにお客様に募金していただいた109,551円は、5月22日のクラシックカー・フェスティバル会場で募金していただいた353,859円とあわせて長久手町を通じて日本赤十字社に寄付いたしました。フェスティバル参加オーナー様の参加費全額と、東北物産の売上の一部322,687円もあわせて寄付する予定です。

企画展「ブガッティ・華麗なる軌跡」
へ車両やポスターを貸出し

当館所蔵の車両ブガッティ タイプ57Cやポスターなどを名古屋市名東区にあるアウト ガレリア「ルーチェ」へ貸し出しをしました。

企画展「ブガッティ・華麗なる軌跡」

開催場所

アウト ガレリア「ルーチェ」(名古屋市名東区)

開催期間

2011年6月11日(土)～8月28日(日)



ブガッティ タイプ57C

秋のバックヤードツアー、
T型フォード運転講習会の
募集について

予告

7月20日(水)より募集を開始します。詳しくはホームページをご覧ください。

夏休み子ども工作教室

予告

毎年恒例の夏のイベントを今年も開催いたします。人気の「木のクルマ」や「段ボールクラフト」など、夏休みの工作にピッタリのイベントです。ぜひご来館下さい。

「夏休み子ども工作教室」

期間：7月16日(土)～8月7日(日)の金土日

8月11日(木)～8月15日(月)

8月19日(金)～8月28日(日)の金土日

場所：トヨタ博物館 新館1階大ホール

ミュージックコーナー
「広がる カタログの世界」を開催

本館3階のミュージックコーナーで「広がるカタログの世界」と題する展示を行いました。

カタログは今はA4サイズが一般的ですが、さまざまなサイズやページの国産車のカタログを展示、紹介しました。



当館にて開催の様子

図書室からの
お知らせ

TAM INFORMATION



レファレンス協同データベースに参加

トヨタ博物館図書室では、2011年3月より国立国会図書館レファレンス協同データベース事業に新たに参加しました。全国で約540の図書館・図書室が参加しています。5月末現在で約20件のレファレンス(問い合わせ対応)事例を登録し、一般に公開しています。 <http://crd.ndl.go.jp/>

2010年度図書室資料寄贈者一覧

(50音順敬称略)

尾崎 桂治 / 小野田 邦安 / 笠井 雅直
片山 豊 / 加藤 豪 / 小松 大輔 / 清水 榮一
高田善介 / 瀧田 資也 / 中崎 小夜子
藤本 國男 / 三重 宗久 / 三本 和彦
山崎 幹泰 / 山下 浩二 / 山田 光男
山中 旭 / 山本 晋也

アイシン・エイ・ダブリュ株式会社
公益財団法人 紙の博物館
社会福祉法人 日本介助犬協会
三樹書房
レクススセンター
ロータス カーズ リミテッド



スプリングイベント開催

3月19日(土)~4月3日(日)にスプリングイベントを行いました。

恒例のスプリングイベント、今回は平日はダンボールクラフトなどの工作教室を、土日祝にはソーブボックスのイベントとして、モックカーの工作教室や実車の乗車体験など行いました。特にソーブボックスカーイベントでは出来上がったソーブボックスカーでタイムトライアルをしてタイムを競ったりと、とても盛り上がるイベントになりました。



レストラン & ショップ情報 - INFORMATION -

ミュージアム レストラン

博物館セット
¥1,350(税込)サラダ付

名古屋名物の車海老フライと味噌ヒレカツをセットにした定番メニューです。



ミュージアム カフェ

美人粥 単品¥350(税込)
ドリンクセット¥450(税込)

静岡県のみで販売されている「美人粥」が愛知県に初登場!鶏ガラとかつおだしをベースに豆乳と胡麻でコクのあるスープに仕上げました。静岡食材をたっぷり使用した絶品のお粥です。



ミュージアム ショップ

トヨタ博物館オリジナル サクマ式ドロップ
¥350(税込)

レトロでかわいいオリジナルの缶です。トヨタAA型乗用車とトヨタ2000GTが片面ずつに印刷されています。お子様から大人まで大人気の商品です。



みなさまのご利用をお待ちしております!

編集後記 From Editor

トヨタ博物館では、上記にて紹介した「スプリングイベント」を開催しました。ソーブボックスを知らない子供たちにとってもいいイベントになりました。夏休みに行われるイベントもお楽しみください。
(菅野 千晴)



スチュードベーカー アバンティ

(1963/アメリカ)【当館所蔵】



TOYOTA AUTOMOBILE MUSEUM トヨタ博物館だより NO.84

発行 トヨタ自動車株式会社 トヨタ博物館
〒480-1131 愛知県愛知郡長久手町大字長湫字横道41-100
TEL 0561-63-5151 FAX 0561-63-5159
ホームページ <http://www.toyota.co.jp/Museum/index-j.html>

発行人 川本常敬

※無断転載禁止